



こども家庭センターだより

あした

明日もしあわせ通信 (第82号) 令和5年4月号

子ども総合センターから「こども家庭センター」へ

令和5年4月1日から「子ども総合センター」の機能が拡充され「こども家庭センター」となりました。

子ども総合センターは、平成28年4月から令和5年3月までの、7年間、相談・支援等の業務を担ってきました。たくさんのご相談等ありがとうございました。

本年度から新たに、こども家庭センター長・保健師・保育士を加え、母子保健の相談等もできる強みを併せ持つ「こども家庭センター」に生まれ変わることとなりました。

0歳から18歳までの育児から子育てに至るまで「こどもさんの悩み等を、関係機関と連携しながら、さらに幅広く一体的に支援を行う」ことができるようになりました。

また、こども家庭センター内に、これまで

通り教育支援を行う「はばたき」教室と、今年度新たに「はばたき」や園・学校等にも足を運ぶことが困難な子どもたちに対し、送迎などを行い、安心の居場所を提供する「おおぞら」も誕生しました。

令和5年度「こども家庭センター」元年となりますが、引き続き皆様の身近な存在として、なんでも相談できるセンターとなるよう努めてまいります。

私ごとですが、90歳の母がやっと免許返納に同意したことをお伝えし5年間お世話になった



「センター長のつぶやき」は、前号をもって終了としました。長らくありがとうございました。(DOIG)



「伊予市適応指導教室 はばたき」から「伊予市教育支援教室 はばたき」へ

本年度から「はばたき教室」の正式名称が、親しみをもてるようにと上記のように変わりました。

はばたき教室は開室されて7年が過ぎ、教室を卒業した生徒たちも現在それぞれの場所で元気に頑張っています。今回は「1年間を振り返って」と題して書いた在校生の思いを紹介します。

● 何とかしようと思うようになった自分

僕は、学校にもはばたき教室にも行くのが嫌でした。特に学校では、みんなに合わせなくてはいけないのでわずらわしかったです。母親が仕事に行った後、正直ほっとしていました。しかし、これではいけないと思い、はばたき教室に通うようになって少しずつ勉強するようになりました。今は高校にも行きたいと思っています。

● 自分から進んで通うようになったスポーツ

私は、スポーツが大嫌いでした。家から出ないので体力も落ちていました。始めははばたき教室を午前中で帰っていましたが、スポーツタイムに誘われてするようになってやってみると楽しかったです。今は、バドミントンの日が楽しみです。

◇ 保護者の方にとっても子どもたちにとっても大切なのは何でしょうか。勉強する事はもちろん大切ですが、何よりも心が元気な事が大切ではないでしょうか。心が元気になると子どもは自分で歩き出します。学習も始めます。はばたき教室では、子どもたちが安心して過ごし、一步を踏み出せる手伝いをしていきたいと思えます。今年度もどうぞよろしく願いいたします。

笑うことは体にいいってホント？

私はお笑いの番組を見るのが好きです。先日もモノマネ番組を見て、お腹をかかえて笑いました。実は「笑うことは、とても体にいいこと」と聞いたことがあります。「笑い」は、お金も手間もかからない手軽なストレス発散の方法だそうです。

おもしろい実験結果を紹介した記事を読んだことがあります。参加したのは中高年の糖尿病患者19人。500kcalの食事をとった後、1日目は糖尿病についての単調な講義を受け、2日目は吉本興業の芸人による漫才を鑑賞して大笑い。そしていずれも食事から2時間後に採血して血糖値を調べると、講義123mg/dl。漫才77mg/dl。「笑い」が糖尿病の改善に繋がるのであれ

ば光明が差す思いです。

4月は学校・学級、また職場・職種で新しい事への挑戦が始まります。日々、ストレスにさらされ緊張感漂う中での学びの場・仕事の場は、身体に芯から堪えます。心が解放できる場所や時間をつくってください。笑顔は人と人をつなぐコミュニケーションツールです。快の感情が増えれば増えるほど、緊張もなくなり人間関係もよくなります。

子育てで悩んでいる方はいませんか？一度気軽な気持ちでご相談ください。

(K・H)



台湾新竹市子育て事情

昨年9月、台湾の新竹市に住む娘に子供が生まれた。里帰り出産も行ってやることもできず、若い夫婦2人で子育てスタート！ところが、台湾には、実家に帰るとい文化がなく、退院したらすぐに産後ケアセンターに入った。設備の整ったワンルームをもらい、3食薬膳料理が出てくる。子供は、いつでも預かってくれ、乳児室のわが子はカメラを通してスマホで見れる。夫も一緒に宿泊できる。娘は、ヨガ教室に通い、ゆっくりと休むことができた。台湾では、産後は静養させる考えが強く、ほとんどの人が2～4週間ケアセンターを利用するようだ。

1ヶ月後、いよいよ自宅で子育てスタート！と思いきや、乳児ヘルパーという資格を持った方を頼んでいた。1日ずっと居て、子供の世話や家族の食事、買い出しなどをしてくれた。このヘルパーに今時の子育てをいろいろ教わり、自信がついてきたようだ。今では、子育てを楽しんでおり、親として安心した。



《巡回発達相談》

新年度が始まりました

新年度が始まりました。暖かさと共にようやくコロナの対策が緩になり、少し明るい兆しに見える春です。

感染に対する恐怖を感じながらの3年間でした。どこか不安な気持ちが常にあったような気がします。大人が不安なのだから子どもはもっと不安に感じていたことと思います。ただ、上手に表せないの、暴れてみたり大声で泣いてみたりするのです。そういう子をよく見かけました。そんな時は、ぎゅっと抱きしめて「大丈夫。」と言ってあげて欲しいと思います。甘えていると言われますが、少し甘えさせてあげてください。不安な気持ちが収まれば元気に活動できるようになるのです。

すべて安心できる状況ではありませんが、そんな不安に少しでも寄り添えるように微力ながら今年も巡回を続けます。(A)

伊予市こども家庭センター

〒799-3127 伊予市尾崎3-1
伊予市総合保健福祉センター2階
☎989-6226